

10万人の

ギャラリー

今回は、奈佐原町にお住まいの坂本好江さんの編みぐるみ「グマ」を紹介します。



▶坂本好江さんのあみぐるみの作品

坂本さんは、13年前に入院した時に、一緒に入院していた友人が、楽しそうに人形を編んでいるのを見て、教えてもらったのがきっかけで編みぐるみを始めました。入院中、お世話になった先生や看護師さんに作品をプレゼントして、「やっぱり手作りのものはいいね」と褒められたことがとてもうれしかったそうです。

ご自宅の室内にあるガラスケースの中には、いくつものカワイイ編みぐるみが並んでいます。一番難しいところは、目・鼻を作ること。曲がってしまうと顔の表情が変わってしまうので、慎重に編みます。良いものが出来上がると、友人や孫・ひ孫にプレゼントしたくなります。「退院して、しばらくは編むことに気乗りしなかったですが、今は、誰かにプレゼントすることが楽しみ。手先を使うことで健康のためにも良いですよ」と笑顔で話していました。

★作品募集★

10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

☎(63)2128

作品介绍 128

川上澄生の世界

この作品は、泥絵と呼ばれる技法が用いられています。泥絵とは、胡粉（ハマグリなどを用いた顔料）を混ぜた不透明な絵具で描かれたものです。江戸末期～明治初期に流行し、西洋の遠近法を取り入れて、江戸の名所絵や芝居の看板絵、絵馬などが描かれました。

民藝運動の提唱者であり、川上澄生のよき理解者であった柳宗悦は、泥絵や大津絵（滋賀県の大津で江戸初期から広まった民俗絵画）

などを「民画」と称してコレクションしてしました。澄生は、日本民藝館を訪れた際に目にし、制作のヒントを得たのでしよう。

澄生の泥絵は、明治時代の商家などが画題となっており、当時の泥絵を参考にしていることが分かります。この作品では、横浜海岸通りが描かれています。小さな画面に緻密に描かれている点に、澄生の几帳面な性格が表れています。開催中の「川上澄生と民藝」展

では、民藝運動の仲間と切磋琢磨し、幅広い創作活動を展開した澄生の新たな一面が見られますので、ぜひご覧ください。

学芸員 白井佐知子

本作品は、2階展示室で開催中の「川上澄生と民藝―濱田庄司、芹沢銈介、塚田泰三郎、棟方志功と共に―」展に出品されています。



川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎(62)8272

1階展示ホールでは「関根丞治コレクション 蔵書票展」を同時開催しています。

「商家B」

制作年不詳

泥絵具 紙

(画面寸法 縦13.5×横17.8cm)